

## 2024\_0505「沈むふたご座（天体写真）」日々の理科 3559号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「上弦の月」は東から昇ってくる時は「弦（明暗境界線）」を下に、南中時は弦を左側に、そして西に沈む時は弦を上にと、天球上を移動する時に「向き」を変えます。星座も同じです。オリオン座は東では「頭を左に寝て」、南中時は「ほぼ直立し」、西では「頭を右に寝て」沈んでいきます（これらは北半球から見た動きです）。

ふたご座の向きは実に奇妙です。東から昇る時は、ふたごそろって完全に「逆立ち」しています。南中時にはふたごそろって頭を左にして寝ています。そして西に沈む時に、やっとふたごそろって直立します。ふたご座は冬から早春に見やすい星座ですが、直立したふたご座らしい姿を見るには、今の時期の夜9時頃、西の空を見るのが最良です。

ふたご座にはもう一つ不思議なことがあります。星座を構成する恒星には、通常明るい順に $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ ・・・と記号がつけられます。ところが、ふたご座は一番明るい1等星の「ポルックス」が $\beta$ 星（写真の左側の星）、二番目の2等星「カストル」が $\alpha$ 星（写真の右側の星）となっています。お兄さんのほうが暗いのですが、 $\alpha$ 星なのですね。しかし実際の星空では、この二つの恒星はほぼ同じ明るさに見えます。

(2024年5月上旬／北軽井沢)

